

和光市子ども議会

H27.11.14 (土) 開催

【市政に対する一般質問】

【市長挨拶】

皆様、おはようございます。本日は、市制45周年記念事業「和光市子ども議会」に御出席いただき、誠にありがとうございます。

和光市では、市制上の節目にこれまでも「子ども議会」を実施してまいりまして、前回は、市制40周年のときに実施をいたしました。その際には、多くの御提言や御質問をいただきました。その際の提言事項で、すでに実現をしたり、改善ができたものがある一方で課題としてそのまま残り、今もそれが議論のテーマとなっている。本日も御質問いただくような項目もございます。政治的な課題には、少し工夫すれば解決するものもあれば、時間と多くのお金がかかるものもございます。一方で市民生活を改善するための予算は、ざっと申し上げますと税金でありますとか、あるいは料金からなりましておのずと限界があるのです。今日も皆さんの御意見を取り入れられるかということ、そうではないことも多いかもしれません。しかしながら、テーマによっては、5年10年とかけて実現に至るものもあり、皆さんの提言や質問がまったく無駄になるということは決してありません。ぜひ、皆さんの思いのたけをしっかりとぶつけていただければと思います。

結びに、来年の夏の参議院議員選挙から18歳以上の方が投票できるということになりました。子ども議員の皆さんが、投票できるのは、衆議院の解散のタイミング次第ではありますけれども最短でも3年と5か月ぐらい後にある和光市議会議員の選挙からになるのではないかと思います。この、子ども議会を機に市政への関心をさらに深めていただければと思います。市役所は皆さんの成長を全力で応援いたしております。よろしく願いいたします。

【議長挨拶】

和光市制施行45周年記念和光市子ども議会の開会に当たり、市議会議長として一言御挨拶を申し上げます。

本日、議事を進めてまいります和光市議会議長の齊藤克己と申します。

開催に当たり、執行部を初め、教育委員会、児童生徒の皆さん、保護者の皆様の御協力に深く感謝申し上げます。

子ども議員の皆さんは、既に社会科の授業で地方自治について学ばれたかもしれませんが、市議会は市民にかわってその声を市政に反映するところで、市の意思を決定する議事機関です。地方自治体では、市長さんと議員はともに市民から直接選挙で選ばれる制度がとられていて、これを二元代表制といいます。市長さんは、事業の提案権と執行権を持っています。議員は、市長さんが執行しようとしている事業が「今でなければならぬのか。」「お金は大丈夫か。」「執行された事業をちゃんと続けていくことができるのか。」「また、違う方法があるのではないか。」など、市長さんを監視する機能を果たします。今日は、皆さんが18人の議員にかわって、市長さんや教育長さんを初め部長さん方に元気に大きな声で、質問をしていただきたいと思います。

また、議会には、いろいろな約束ごとがあり、本日もふだんどおりに議事進行をしております。

今回の子ども議会を通じて、皆さんに「議会というものがこのように行われているのだ。」「和光市の政治を進めているのだ。」と、大いに関心を抱いてほしいと思います。

和光市の発展には、皆さんの若い力が不可欠になってまいります。ぜひ、皆さんの今後の活躍を大いに期待しています。

傍聴されておられます保護者の皆様、関係者の皆様、日頃より議会活動に御理解をいただき、ありがとうございます。

和光市議会は、市民にとって身近で、多くの方々に議会に関心を持っていただけるよう、より開かれた議会を目指して、取り組んでおります。

本日の子ども議会が、児童生徒の皆さん、そして保護者の皆様にとってよき思い出になることを願い、開会の挨拶といたします。

発言順位1番 國枝 誠弥 子ども議員

子ども議員の白子小学校、國枝誠弥です。

下新倉小学校の開校イベントについての一般質問を行います。

僕は下新倉児童センターが大好きだったので、下新倉小学校も地域の人が親しむことができる学校を目指してほしいと思っています。

そこで質問ですが、開校を記念して学校の屋上で天体観測を一般の方々に楽しんでもら

う企画は可能ですか。なぜなら、下新倉小学校の周辺は高い建物がなく、明かりも少ないので、星がきれいに見えるからです。

また、僕は白子小学校に4年生の時に転校してきましたが、事前挨拶に学校を訪れた日、当時の教頭先生が校歌を歌ってくれて、僕の不安を一瞬でほぐしてくれました。その時、歌の力はすごいなと思いました。だから、開校記念になるような歌のイベントもあると、みんなの心に残ると思いましたがいかがでしょうか。以上です。

【子ども議員の質問に対する答弁：大久保教育長】

おはようございます。

それでは、白子小学校、國枝誠弥 子ども議員の御質問にお答えします。

下新倉児童センターは、下新倉児童館として現在建設中の下新倉小学校の中に来年4月より、新たにスタートを切ることになりました。また、学校内には図書館をつくったり、特別教室の配置に工夫を凝らすことで積極的に学校を開放し、地域の方から親しまれる開かれた学び舎にしていきたいと思っております。

さて、開校イベントの提案をいただきありがとうございます。最初の天体観測の提案は、確かに下新倉小学校付近はネオンや街灯など光の害が街中よりは少ないことから、天体観測をするには、比較的よい場所であると思います。ただ、下新倉小学校の校舎には、屋上がありません。ですから、実施をする場合には、校庭の利用が考えられます。また、児童館とともに連携を図りながら実施を検討してみたいと思います。

ところで、國枝議員は、星に関心がありそうなので、フリップにまとめてみましたので、お話してみたいと思います。まず、全天、宇宙ですね、ここには、人間が肉眼で見える星は、1等星から6等星くらいまでのようです。天体望遠鏡ではもっとたくさん見えるのですけれども、そしてここに表しましたが、6等星を1とした場合に1等星はこれの100倍、だから6等星が100個集まると1等星の明るさになるのですね。さて、東京はごらんのように、ネオン、街灯、本当に夜だか昼だかわからないような状況であると思います。この和光市もそういった光の害がやはりあります。ですから、おそらく下新倉小学校辺りで、観測する場合も3等星くらいまでしか見えないのかなと思います。全天で8,600個の星があるといわれていますけれども、その中で北半球で見えるのは、その半分です。そうすると、1等星から3等星くらいまでの星だと、数えてみると150個くらい見ればいいのかと思います。いずれにしろ、國枝議員は、星に関心があるということですので、今後また、白子小学校での生活を通して、白子辺りでの星の見え方。そし

て下新倉小学校辺りでの星の見え方などをちょっと調べてみるといいと思います。國枝議員は、宮沢賢治の「銀河鉄道の夜」知っていますか。あの内容は、「白鳥座から南十字星まで」の旅ということですので読んでください。

次に、國枝議員自らの経験談を踏まえて、みんなの心に残る歌の提案をいただきました。確かに、歌には、言葉では伝わらない気持ちを込めることができます。みんなが同じ学校の仲間として一体感を共有できる校歌を歌うことは良いことだと思います。下新倉小学校は、誰もが初めて通う学校なので、不安も多いこととは思いますが、下新倉小学校の校歌は、開校するに当たり、たくさんの方からいただいた応援メッセージを基に作詞作曲されたものとなっています。開校イベント当日は、作詞作曲に協力いただいた方を交え、みんなが歌う校歌を第一歩に、これからの下新倉小学校を創る仲間達が絆を深め、たくさんの方からいただいた応援を仲間達と分かち合うものであって欲しいと願っております。

下新倉小学校には、國枝 誠弥 子ども議員が白子小学校で生活をともにした大勢の後輩たちが通学をしますので、これからも、下新倉小学校への良きアドバイスをよろしくお願ひしたいと思ひます。

【子ども議員の質問に対する答弁：松本市長】

國枝議員、御質問ありがとうございます。下新倉小学校は、國枝議員の後輩たちが通う新しい学校です。國枝議員は、白子小学校の卒業生になりますが、ぜひとも後輩たちの新しい学校への送り出しを応援していただきたいと思ひます。それから、先ほど教育長さんの答弁にもありましたが、また、児童館そして図書館もできますので、ぜひともしっかり通って使っていて、そしてまた、大好きな児童センター時代の思い出も大切にしてください。以上です。

発言順位2番 高橋 花乃穂 子ども議員

子ども議員の白子小学校、高橋花乃穂です。

和光市の自然を残せるかについての一般質問を行います。

和光市は東京都に隣接し、都心にとても近いのに緑や自然が多くたくさんの農産物を収穫できます。私の通学路にもたくさんの畑や木々、草花があり、四季を感じる事ができます。私はそんな自然あふれる今の和光市が大好きです。

現在、私の家の周りでも区画整理が行われています。家が増え、人口が増えることは

和光市の発展^{はってん}にとって、とても大切に喜ばしいことです。しかし、自然が減り、風景が変わってしまうのは、私^{わたし}にとってとても悲しいことです。そして、今の和光市が消えてしまうのではと心配です。

大人になって、ふるさとと思えるホッとできる場所があってほしいと願います。

今の和光市の緑や自然が減ってしまうことをどう考えていますか。

そして、今の和光市の緑や自然を残し、守っていくことはできますか。以上です。

【子ども議員の質問に対する答弁：本間市民環境部長^{かんきょう}】

それでは、白子小学校、高橋花乃穂 子ども議員の質問にお答えいたします。

和光市は、東京都の隣^{となり}に位置する住宅都市^{じゅうたく}にもかかわらず、林や森などの緑地や農地など緑豊かな自然があり、そのことが和光市の大きな特徴^{とくちょう}になっています。しかしながら、近年開発が進み、その豊かな自然も少しずつ減ってきています。

そこで市としても、これらの状況^{じょうきょう}に対応するため、緑地の地主さんから土地を借りて、自然環境^{かんきょう}に関わる方々と一緒^{いっしょ}に林や森を保護する活動を行い、「ふれあいの森」として、地域^{ちいき}の方々に親しめる緑地づくりを行っています。

その他^{ほか}にも、一定の広さの緑地や樹木^{じゅもく}に対しては、市独自の補助制度^{ほじょ}を設け、地主さんの負担^{ふたん}を軽くして緑地が末永く維持^{いじ}できるようにしています。また、畑などの農地の保護については、新鮮^{しんせん}で安全な農産物を作ってもらうことや農業体験、交流活動や緑^{いこ}の憩いの場として、また、地震^{じしん}などの災害が起こった場合の避難場所^{ひなん}などにも使えるなどの役割^{やくわり}を持っている農地を残すため、農業に力を入れている農家の方に対して、様々な補助制度^{ほじょ}を作って、農業を続けてもらえるよう努力しているところでございます。これからも、このような取組を積極的に進めることで、和光市に残された豊かな自然を未来に伝えていきたいと考えています。

【子ども議員の質問に対する答弁：松本市長】

高橋議員、御質問ありがとうございました。市民^{みな}の皆さんも和光の畑を守るためにできることがいろいろあります。例えば、和光で取れた野菜をみんなで食べていただくことで、和光の畑を守ることができるのですね。また、白子三丁目の区画整理が進んでいます。区画整理の地区内には、公園ができます。ぜひともその公園も緑あふれる公園にできればと思っておりますので、ご利用^{ちいき}ください。地域^{ちいき}の緑をこれからも守っていききたいと考えております。

発言順位3番 伊東 好優季 子ども議員

子ども議員の新倉小学校、伊東好優季です。

新倉小学校の建て替えについての一般質問を行います。

新倉小学校は新校舎が建ち、とてもきれいで毎日快適に生活できています。しかし、低学年が学校生活を送るピロティ校舎では、私たちが掃除に行った時もトイレからは嫌な臭いがしたり、教室の移動も、とてもしにくい構造になっています。ぜひ新しくしていただき、低学年も快適な学校生活を送れる校舎を考えていただければと思います。建て替えが実現できるかがいます。

また、もし新しく建て直すことになればどんなデザインになるか教えてください。以上です。

【子ども議員の質問に対する答弁：橋本総務部長】

それでは、新倉小学校、伊東好優季 子ども議員の質問にお答えいたします。

現在の新倉小学校のピロティ校舎は、1964年(昭和39年)に建設され、人間で言えば今年で51歳となります。半世紀を過ぎた建物なので色々と修理するところも増えてきています。

この校舎を建て替えてはどうかとの御質問ですが、結論から申し上げますと、建て替えの予定は今のところございません。低学年の子どもたちのことを考えた伊東議員の優しい気持ちに答えられず大変心苦しいのですが、その理由をこれから申し上げますので、聞いてください。

和光市では、今、公共施設、例えば市役所や公民館、図書館など、もちろん、小中学校も入りますが、この公共施設をこれから20年、30年先までどのように維持管理しているかということを考えています。例えば、現在、市内には91の公共施設があります。この全ての施設を持ち続けるには、これからも沢山の税金が必要となります。残念ながら、今の和光市にはそのお金を準備する余裕はありません。

そこで、91ある施設をそれぞれ詳しく調べて、どのようにするのが一番良いのかを市民の皆さんと一緒に考えていこうと思っています。

その場合、公共施設の全体数を増やさないこと、そして、建て替えなどを行う場合は、いくつかの施設を集めて建設するという、この2つを基本的な考え方として話し合い

を行います。いくつかの施設を集めて建設する身近な例としまして、こちら(フリップ)ですね、これは、4月に開校する下新倉小学校の絵です。向かって左側が校庭です。そして、真中の施設、こちらが教室がある校舎になります。そして、こちらの奥の施設、これが体育館やプールがある校舎になります。校舎と体育館を結ぶ部分が、児童館、保育クラブと図書館が、建設されて地域の人たちが利用できるようになります。

これからの公共施設は、このようなスタイルが主流になると考えています。

伊東議員からいただいた新倉小学校ピロティ校舎の建て替えについても、今申し上げた手順や考え方に沿って話し合いが今後、行われることとなりますので、初めに、「建て替えの予定は今のところありません。」とお答えしたものです。

今ある施設を丁寧に使って、出来るだけ長持ちをさせることが大切なことですが、校舎を建て替えるとなった場合は、下新倉小学校のように、いくつかの公共施設を集めた学校となること、また、デザインは、子どもからお年寄り、障がいのある方まで全ての人を使いやすいデザインとなることが考えられます。答弁は以上です。

【子ども議員の質問に対する答弁：松本市長】

伊東議員、御質問ありがとうございました。先ほど総務部長からも、まだ今のところ予定はありませんよと答弁をいたしました。公共施設は、コンクリートの場合は、大体60年くらいは、使うことになっております。新倉小学校もあと9年くらいすると、建て替えなければなりません。ですから、それくらいの時期を目指して計画をつくっていきます。近くにあるコミセンも、もしかしたら小学校の中に入るといことも計画に含まれるかもしれません。これから、その計画づくりにもぜひとも参加いただければと思います。

発言順位4番 黒川 幸暉 子ども議員

子ども議員の新倉小学校 黒川 幸暉です。

中学校建設予定についての一般質問を行います。ぼくは新倉小学校に通っています。来年度から大和中学校に通う予定ですが、新倉小学校と白子小学校の人数は多く、さらに下新倉小学校までできるくらい多くの子どもたちがいます。そこで駅の北側に新しい中学校を建てることのできるかについてお聞きします。以上です。

【子ども議員の質問に対する答弁：山崎企画部長】

おはようございます。それでは、新倉小学校、黒川 幸暉 子ども議員の御質問にお答えいたします。

和光市の小中学校については、合わせて11校あり、駅を中心として南側には小学校が5校、第三小学校、第四小学校、第五小学校、広沢小学校、そして本町小学校です。中学校が3校、大和中学校、第二中学校、第三中学校がございませう。また、北側には、小学校が3校あります。白子小学校、新倉小学校、北原小学校です。児童・生徒数を見ると、本町小学校が約250人に対して白子小学校が3倍以上の約800人となっています。また、第二中学校の約400人に対し大和中学校が2倍以上の約900人という状況です。このことから、市内における学校の適正な配置や施設の適正な規模を考えた結果、平成21年度から小学校の建設について具体的に考えてきました。

そしていよいよ来年の4月には、待望の9番目となる下新倉小学校が開校いたします。

そして次に、御質問の中学校の建設の問題になるわけですが、今、答弁しましたように、大和中学校は、北側の小学校全校の生徒が通っているため、マンモス校となっており適正な規模ではない状況となっています。このことから、市内中学校の適正な配置を検討しなければなりません。市内3校の中学校の平均面積は約2万㎡ですので、同じ規模の中学校を建設するとなると、市内の北側地域に学校用地を確保する必要がありますが、学校建設には多額の費用がかかることなどがありまして、大変難しい問題となっております。

今後は、中学校の建設に対し十分に慎重な検討を重ねて、また、市民の皆様からいろいろな声を聴きながら、市としての全体的な「まちづくり」の視点の中で、解決策を考えていきたいと思ひます。以上です。

【子ども議員の質問に対する答弁：松本市長】

黒川議員御質問ありがとうございました。北側の中学校の建設をもしするとすると、おそらく先ほど企画部長の答弁にありましたように、小学校建設の1.5倍は最低でもお金がかかると思ひます。小学校を今度建てるのに40億円くらいかかりますので、それだけのお金をかけられるかどうか、それから、土地も皆さんが通える近い場所にはなく、なかなかもう空き地が無くなってきております。もちろん、荒川の河川敷まで行けば土地もあるかもしれませんが、それもなかなか大きな課題です。さらには、かかるお金というのは、多くは、借金をすることになります。その借金は、何十年もかかって、たぶん皆さんも納税者になって返すことになると思ひます。そういったことを全てやれるかどうか

ということをトータルで市民の皆さんと一緒に考えていきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

発言順位5番 内田 夏音 子ども議員

子ども議員の第三小学校 内田 夏音です。

和光市の子どもたちが使用できるプールについての一般質問を行います。

市役所近くにある総合児童センタープールが使えなくなってから、もう3年近くがたとうとしています。水漏れが発生したため、使えなくなったそうですが、和光市に私たちが子どもが気軽に使えるプールがなくなってしまい、不便だなと感じています。

そこで、3つの点について質問をさせていただきます。

1点目は、今後、総合児童センタープールは、また使えるようになるのでしょうか。

2点目はまた使えるようになるのであれば、いつ頃に、どのような形で使えるようになるのか、予定を教えてくださいたいです。

3点目は新しくできる下新倉小学校のプールは市民も利用が可能であるのかということです。下新倉小学校のプールは屋根がついていると聞いていますが、可能であれば、和光市に住んでいる子どもだけでなく、大人も利用できるといいと思います。以上です。

【子ども議員の質問に対する答弁：東内保健福祉部長】

それでは、第三小学校、内田夏音 子ども議員の質問にお答えいたします。

はじめに、市民の皆様にも総合児童センタープールが使用できず、ご迷惑をおかけしていただきますことをお詫び申し上げます。

それでは、1点目と2点目の御質問につきましては、平成24年12月、総合児童センタープールから大量の水が地下に流れ出たことが専門的な調査でわかったことからプールを閉館し、そのプールの対応策を市民の方にも参加をいただいて、和光市総合児童センタープール検討委員会を開催して、プールの地下部分が陥没することも考え、簡単な修理ではなく総合児童センタープール全体をどうしていくか、総合児童センタープールの今後のあり方を考えました。この委員会でまとめた意見の報告を踏まえ、今度の和光市総合児童センタープールは、子どもからお年寄りまで幅広い年齢層の市民が利用できる「市民プール」として建て替えることを検討することになりました。建て替えに当たっては、総合児童センターや市役所の周辺地域に、ほかの施設なども入った、にぎわいのある地域にする

ことも含めて検討をしております。現在、総合児童センターや市役所の周辺は、建物を建てるのにいろいろな制限がある地域となっているため、この地域の使い方を変えるとても大きな事業となります。地域の使い方を変えるには法律に従って手続きを行う必要があるため少々時間がかかりますが、平成29年度中の整備を目指しております。

3点目の御質問につきましては、下新倉小学校のプールは、屋内プールとして長い期間、使えるように計画をしております。

そこで、学校施設なので、これから教育委員会をはじめ下新倉小学校と学校開放事業として検討していきます。

【子ども議員の質問に対する答弁：松本市長】

内田議員御質問ありがとうございました。

総合児童センターのプールが建っているところは、非常に便利な土地なんですね。今はその土地を十分に生かして建物が建っているわけではないということも含めて、今後、いろいろな形で「高度利用」というのですけれど、土地を十分に生かしたそんな施設になることを目指しております。ちょっと時間はかかってしまいますが、完成したらぜひご利用ください。よろしくお願いいたします。

発言順位6番 堀江 優一 子ども議員

子ども議員の第三小学校、堀江 優一です。

和光市駅に駅ビルを建設することについての一般質問を行います。

和光市駅は、T J ライナーを除くすべての種類の列車が停車する重要な駅です。乗り降りする人たちもたくさん増えていると思います。それにもかかわらず、駅ビルがありません。駅ビルを整備してより良いお店をたくさん入れることで、もっと利用しやすくなり、便利になるのではないのでしょうか。

駅ビルのお店に食事や買い物に行くだけでなく、そこに行くだけで楽しいと思えるような駅にしていくことで、和光市民や他の地域の人も多く集まり和光市がさらに活性化すると思います。

以上の理由から、和光市駅に駅ビルを建設することが可能かどうかがあります。以上です。

【子ども議員の質問に対する答弁：山崎企画部長】

それでは、第三小学校、堀江優一 子ども議員の質問にお答えいたします。

和光市駅には東武東上線をはじめ東京メトロ有楽町線と副都心線が乗り入れています。和光市駅を利用する人も1日当たり平均で16万4千人と池袋駅に次いで多くの人に利用されていて、皆さんの住んでいる和光市は、大変交通が便利なまちとして人口も増えてきています。

御質問のとおり、現在、和光市駅には志木駅のような駅ビルがありませんが、鉄道会社の計画では、東京オリンピック・パラリンピックが開催される頃までには、和光市駅南口に駅とつながった商業施設が建てられることになっています。施設の詳しい内容は、これから明らかになってくると思いますので、いまから楽しみにしててください。

現在、和光市駅の北口地区では、生活道路の整備や防災性の向上など安全で暮らしやすいまちづくりを進めるために、区画整理事業が進められていますが、将来は、和光市により多くの人々が訪れ、まちがさらに発展していくように駅の北口にも駅ビルなどができるように、鉄道会社への要望など和光市役所も様々な活動をしていこうと考えています。

皆さんが成長して大人になり、やがて結婚し皆さんのような子どもを持って、ずっと和光に住み続けたいと思ってもらえるようなまち、また、交通が便利であるなどの都市機能とみどりや湧き水などの自然が調和した「快適な環境のまち」を皆さんと一緒に創り上げていくために、今後も市役所は一生懸命仕事をしていきます。これからも皆さんの素晴らしいアイデアを是非お聞かせください。

【子ども議員の質問に対する答弁：松本市長】

堀江議員、御質問ありがとうございました。

駅の土地、それから駅の南側と北側の土地は、鉄道会社が持っているのです。その土地というのは、土地を持っている人が利用方法を決めるというのが基本です。これは、民主主義の基本でもあるのです。私たちが持っているものは、自分たちのものとして自分がどういう風に使うかを判断できる。こうなったのが、民主主義の始まりの1つのきっかけなんですね。ですから、そういう所有権を大事にしながら、しかし、あの場所は市民みんなが使う重要な場所です。市役所としてもしっかりとその場所をどのような場所にするのかを意見を伝えながら、市民が便利になるように頑張っていきたいと思っております。

発言順位7番 川村 龍羽 こども議員

子ども議員の第四小学校、川村龍羽です。

ボール遊びができる公園の設置についての^{いっばん}一般質問を行います。

僕は、友達と公園で遊ぶ時、みんなと一緒にサッカーなどの体を動かす遊びではなく、ゲームなどのまったく体を動かさない遊びばかりしています。なぜなら、僕^{ぼく}の家の近くにある公園のほとんどはボール遊び禁止などになっていて、自由に遊ぶことができないからです。僕自身はサッカーを習っています。放課後も一人で練習をしたり、友達みんなとサッカーをしたりして楽しみたいのですが、なかなかできません。

ボール遊びができる公園が増えると、子ども達^{たち}が体を動かし、自由に遊ぶことができると思います。そして、これまでゲーム遊びを中心にやっていた子たちも、元気いっぱい体を動かして遊ぶと思います。

だから、みんながのびのびとボール遊びができる公園を設置してほしいと思います。

設置が実現できるかがいます。以上です。

【子ども議員の質問に対する答弁：星野建設部長】

それでは、第四小学校、川村龍羽 子ども議員の質問にお答えいたします。

日頃^{ひごろ}から身近に利用している公園について、関心をお持ちいただきありがとうございます。ご

公園は小さな子どもからお年寄りまで、いつでも、誰^{だれ}でも利用できるようルールを決めております。公園は散歩する人、ベンチに座^{すわ}っている人、遊具で遊んでいる人など、いろいろな人が利用するので、ボール遊び専用の施設^{せんよう しせつ}以外ではボールを使うスポーツはできません。投げたり蹴^けったりしたボールが当たったり、隣^{となり}の家の窓ガラスを割^わるなど、ボールやバットを使う遊びは、危険^{きけん}なことがたくさんあります。このために、多くの公園ではサッカーや野球をすることはできません。

友だちと外で遊ぶことは、とても大切だと思っております。ボールを使える公園は、今、和光樹林公園^{じゅりん}や越後山中央公園^{えちご}のような大きな広場が必要になりますが、このような場所を用意^{むず}することは、とても難しくなっております。そのため、身近にある公園でボール遊びができるようにするには、どうしたらよいか、どのようなルールが必要な^{ちいき}のか、地域の人たちと話し合うという方法があります。

例えば、公園でボール遊びをしてもよい日や時間を、皆^{みな}さんで決めて利用することはできることだと思います。そのためには、皆^{みな}さんが利用する公園なので、他^{ほか}の人に迷惑^{めいわく}にならないよう心配りや思いやりなど、利用するときのマナーも大切なことです。

いろいろな人が快適に利用できるようにルールを作るには、皆さんの住んでいる地域の
人たちと市役所が、公園利用のマナーについて一緒に考え、ルールを決めることができ
れば、ボール遊びが出来る公園が増えていくものと考えていますので、いろいろな御協力をお
願いたします。以上でございます。

【子ども議員の質問に対する答弁：松本市長】

川村議員、御質問ありがとうございました。

実は、ボール遊びができる場所が欲しいという質問は、前回の子ども議会でも同じ事案
がありました。なかなか実現できないことをお詫び申し上げます。そして、考え方としては、
今、ある公園の周りにしっかりとしたフェンスを作って、そして公園の利用者の中でしっ
かりと時間とかそういったルールを作る中で実現することは、不可能ではないと思ってお
ります。後は、そのフェンスを作る予算をどう工面するかであります。その課題というの
は、教育委員会とも共有しておりますので、これからも子どもがのびのびとボールで遊べ
る場所を実現するために、いろいろな検討をしていきたいと考えております。

発言順位8番 齋藤 恒輝 子ども議員

子ども議員の第四小学校、齋藤恒輝です。

通学路の水たまりがしやすい箇所かしよ ほしゅうの補修いっばんについて一般質問を行います。

ぼくは、通学路の水たまりがしやすい箇所かしよ ほしゅうの補修について質問します。

ぼくは、雨の日に学校へ向かっている途中とちゅうに大きな水たまりを見つけました。その水た
まりは大またでまたがなければわたれないくらいの大きさです。その道は狭く、よけよう
とすると道路あぶに出て危なく、自転車とのせつしょく事故が起こるかも知れません。そこで
水たまりのへこみを直し、水たまりにならないようにしてほしいです。そうすればみんな
が安全に登校できると思います。補修ほしゅうが実現できるかがいます。以上です。

【子ども議員の質問に対する答弁：星野建設部長】

それでは、第四小学校、齋藤恒輝 子ども議員の質問にお答えします。

まず道路について説明させていただきます。道路には大きく分けて、国が管理する国
道・県が管理する県道・市が管理する市道がございます。それぞれが国、県、市が整備し
たり、修理したりしております。和光市には、この国道・県道・市道の全てすべがござい

国道は、(フリップで説明) 丸みを帯びた逆三角形の逆さおにぎりのような標識に道路番号を標記し示されており、県道は六角形の標識に道路番号を標記し示されています。市道につきましては、国道や県道のように標識はございませんが、道路番号は国道や県道と同じようについております。

今回、齋藤 子ども議員が質問されている水たまりのしやすい箇所、こちらは、県道の練馬・川口線という場所になります。ここについて主に管理・修理を行うところは埼玉県となります。和光市は、道路を管理している埼玉県に対して、「小学生の皆さんが安全に登校できるよう」、道路の修理をお願いしてまいりたいと思っております。

また、今回のように道路についての質問などが多々あると思えます。国道・県道・市道にかかわらず、道路に関していろいろな御質問がございましたら市役所に問い合わせさせていただきたいと思っております。問題の解決に向けて考えてまいりたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

【子ども議員の質問に対する答弁：松本市長】

齋藤議員、御質問ありがとうございます。このようにですね、道路に穴が空いたとかですね、道路に水たまりができるということは、実はよくあります。道路もできてから時間がたつと、地盤が陥没しますので、いろいろな不都合が出てくるのです。ところがですね、市役所もこれを見つけるために道路パトロールとかを行っていますが、必ず見つけられるとは限りません。この間も私のところに、夜、道路の真中に危ないという連絡がありました。見に行ってみると、昼間はあまり目立たないちょっとした窪みなんです。夜、暗いところで見ると確かに窪みがあるのです。しかも、そこは非常に危ない穴でしたので、すぐに塞いでもらいましたが、ぜひとも子どもの皆さんも、あるいは市民の皆さんも市役所に積極的に不都合を教えていただければ早急に安全対策ができると思っておりますので、子どもだからと遠慮せずぜひともおっしゃってください。よろしくお願いいたします。

発言順位9番 河野 咲耶 子ども議員

子ども議員の第五小学校、河野咲耶です。

和光市のゆるキャラについての一般質問を行います。

和光市のゆるキャラは、わこうっちとさつきちゃんですが、和光市をよりよく知っても

らうために、どんな取り組みをしていますか。

わこうっちは、駅の前などでグッズを売っていたり、市の行事に参加したりと和光市民にはとても有名です。

しかし、ゆるキャラグランプリ2015では94位とまだまだ全国的に有名ではありません。

たとえば、第3位だった深谷市のふっかちゃんのように有名になり、ゆるキャラから和光市を今までよりもっと他の市や県の人に知ってもらいたいと私は思っています。

そのために、これからどのような企画をしていくのかについてお聞きします。以上です。

【子ども議員の質問に対する答弁：本間市民環境部長】

それでは、第五小学校、河野咲耶 子ども議員の質問にお答えいたします。

まず、和光市イメージキャラクター「わこうっち」は、地域活性化を目的に和光市をイメージできる親しみやすいキャラクターの募集を行い、応募があった281作品の中から選んだ10作品で市民による人気投票を行い、平成23年2月に和光市のイメージキャラクターとして誕生いたしました。

和光市のゆるキャラ「わこうっちとさつきちゃん」は、皆さんが感じているようにかわいいので市民だけでなく市外の人にも人気があり、市内外で行われる様々なイベントに参加して、今日、明日も、市民まつり会場で、来場している方に和光市のことを宣伝しております。

確かに、議員がおっしゃるように、全国的にはまだ有名ではありませんが、ゆるキャラグランプリでも上位になれるよう、わこうっち応援隊の皆さんの力を借りて、これからもどんどんイベントに参加したり、オフィシャルホームページ、ブログを活用して和光市のことや「わこうっちとさつきちゃん」のことを他の市や町の人に知ってもらえるよう、これからも楽しい情報を発信していきたいと考えています。

【子ども議員の質問に対する答弁：松本市長】

河野議員、御質問ありがとうございました。

私もわこうっちが大好きです。わこうっちが上位になれるよう一生懸命応援をしています。

では、「ふっかちゃん」と「わこうっち」は、どう違うのかちょっと御説明します。ふっかちゃんのまち深谷市というのは、深谷ねぎのまちですね。ふっかちゃんのマークが「ね

ぎのくるっと巻^まいているテープにあると、それだけでねぎがいっぱい売れるそうです。深谷市は、ねぎを売り、そして深谷の野菜を売るために、戦略的にふっかちゃんを有名にしてきたのです。深谷市でふっかちゃんを有名にしてそして、野菜が売れると、ものすごい金額のお金がもうかります。一方で、和光市の場合は、そういったものというのは、まだないのです。ですから、和光市でもこれ売りたいというものをつくって、そして和光市が有名になると、とってお金が入ってくるとなると、わこうっちを^{せんでん}宣伝するのもっとお金をかけることができますね。ですから、1つは、わこうっちを有名にすること。それから、もう1つは、和光市の名物をつくり、しっかりと売り込^こむること。両方とも考えたいと思っておりますので、市民の^{みな}皆さん、子どもの^{みな}皆さんにもいろいろなアイデアをいただければと思います。今はぜひ口コミ等^{がんぼ}で頑張^{がんば}っていきたいと思っておりますので、よろしくお願^{ねが}いいたします。

発言順位10番 後藤 菜那 子ども議員

子ども議員の第五小学校、後藤菜那です。

保育園や老人ホームの^{しせつ}施設の不足^{いっぼん}についての一般質問を行います。

和光市は、^{ほか}他の市より人口が少ないですが、保育園や^{かいご}介護付き老人ホームなどの^{ふくし}福祉施設は多く充^{じゅうじつ}実していると思っておりました。しかし、調べてみると、保育園や老人ホームは待機者数が多いのが現状でした。待機者数が増える原因として、共働きの人が多いということと、お年寄りの^{かいご}介護が家でできないことがあげられます。

例えば、保育園の場合で考えるとお母さんが正社員として働きたいと思っても、保育園に預けることができなければ、仕事をやめ、子どもを^{ようちえん}幼稚園に入れるしかありません。正社員よりパートは^{しゅうにゆう}収入が少ないため、お父さんとの^{しゅうにゆう}収入を合わせても生活が^{きび}厳しくなる家庭も出てくると思います。

また、老人ホームの場合は、^{かいご}介護ができない家族が多く、^{しせつ}施設にたよらざるをえません。費用がかかるので、やはり共働きをしなければならぬと思っております。

このようなことを考え、もう少し^{ふくししせつ}福祉施設を増やしてもらうことができれば家庭への^{ふたん}負担が減るのではないかと思います。

^{しせつ}施設を増やすことができるかがいます。以上です。

【子ども議員の質問に対する答弁：東内保健福祉部長^{ふくしぶちょう}】

第5小学校、後藤奈那 子ども議員の御質問にお答えします。

はじめに保育園についてですが、平成27年4月1日現在の保育園待機児童数は、国の示す基準で集計すると59人となっています。そのため、今年の4月からスタートした「子ども・子育て支援事業計画」では、保育利用ニーズ、いわゆる保育園の希望者の数です。希望者に対応する保育サービスの量や必要になる施設の数（すいけい）を推計して、待機児童がゼロになるような具体的な取組を定めており、平成27年度中に70名定員の保育所を1園と、0歳児から2歳児を対象とした小規模な保育所（しょうきぼ）を5か所整備し、その後も計画的に整備をしていくことになっています。それが、こちらの下（か）のフリップになります。保育園だけでなく、子ども子育てを応援（おうえん）する形で、議員の質問のように、お仕事と子育ての両立ができるような部分を整えていきたいと考えております。

次に、老人ホーム等の高齢者施設についてお答えいたします。

介護保険のサービスや施設については、「長寿あんしんプラン」という計画の中で、地域の高齢者を介護するためには、何がどのくらい必要なかを分析（ぶんせき）して、サービスや施設の整備する量を推計（すいけい）しています。この分析と推計に基づいて平成29年度までに、定員が29人の地域密着型介護老人福祉施設（ちいきみつちやくがたかいご ふくししせつ）、これは、小規模な特別養護老人ホーム（しょうきぼ）になりますが、1か所整備することになっております。

和光市では、介護が必要となった状態でも、住み慣れたご自宅や地域（じたく ちいき）の中で暮らし続けられるよう、自宅（じたく）にしながら施設（しせつ）と同じようなケア、いわゆる介護（かいご）を受けることができるようなサービス提供（ていきょう）をする仕組みを整えています。これが上のフリップで、地域（ちいき）に密着（みつちやく）した様々な介護系（かいごけい）のサービスが整（ととの）っております。これを難しい名前（むずか）ですが、「地域包括ケアシステム（ちいきほうかつ）」とって、老人ホーム等の施設（しせつ）を増やすことだけでなく、自宅（じたく）等の住まい（すまい）において高齢者（こうれいしゃ）を24時間（かいご）介護（かいご）することができるサービス（サービス）も整（ととの）ってまいりました。

また、介護（かいご）が必要な状態（か）にならないよう（か）に予防（よぼう）する取組（くみぐみ）や、いわゆる介護（かいご）予防（よぼう）とい（い）います。高齢者（こうれいしゃ）を介護（かいご）するご家族（か）の方が仕事（しごと）と介護（かいご）を両立（りょうりつ）できるような支援（しえん）などの取組（くみぐみ）にも力（ちから）を入（い）れているため、和光市（わこうし）の地域包括ケアシステム（ちいきほうかつ）は、全国（ぜんこく）の多く（おほく）の市町村（しやまづら）に注（つ）目（め）されてい（い）る状（じやう）況（きやう）です。

【子ども議員の質問に対する答弁：松本市長】

後藤議員、御質問ありがとうございました。

実はですね、和光市で新しい保育園をこれまでも建てる年に、計算上は、待っていらっしゃる方よりも定員の数が多いということが、これまで毎回そうだったのです。ところが、

春になってふたを開けてみると、それ以上の方が入園を希望されて、そして待機児が出てしまうという^{じょうきょう}状況になってきました。これは、1つに市内にももちろん保育園に入りたいたいという^{ごかてい}御家庭があって、それから市外でもですね新しい保育園ができるとなるともしかすると入れるかもしれないということで、そのために^{ひっこ}引越し来られる方もいるのですね。ですから、和光市でも^{いっしょうけんめい}一生懸命努力をしていますけれども、近所の自治体でも同じような努力をしていただかないと待機児が減らないのかなと思っております。そういったバランスも重要かと思っております。それから、^{こうれいしゃ}高齢者の件ですけれども、先ほど部長からも説明がありましたが、^{じたく}自宅にいてそして老後を過ごすことと、そして老人ホームにいて老後を過ごすことどちらが幸せだろうと^{わたし}私たちは考えました。その中で、できるだけ^{じたく}自宅にすることができるような仕組みをつくって、^{ちいき}住み慣れた地域で、いつまでも^{ごきんじょ}御近所のお友だちに囲まれながら、^{えがお}笑顔で老後を送りたい、そんな老後を実現するためのいろいろな^{しさく}施策を市役所では^{がん}頑張っています。ぜひとも、そういった^{ごりかい}観点も御理解いただきながら、そういったいろいろな子どもについてもお年寄りについてもサービスを待っている方がおられますので、そういった方が満足できるように努力をしていきたいと考えております。

発言順位11番 高橋 優雅 子ども議員

子ども議員の^{ひろさわ}広沢小学校、高橋優雅です。

和光市議会についての^{いっばん}一般質問を行います。

^{ぼく}僕は^{ひろさわ}広沢小学校の^{どう}児童会で書記をしています。

^{どう}児童会の会議では、9つの委員会活動をバックアップする方法を考えたり、新しい課題に向けての取組を話し合ったりしています。

たくさんの意見が出る時は、なかなかまとまらず、会議を進めることが^{むずか}難しいと感じています。

市議会では^{ぼく}僕たちが考えられないほどのたくさんの議題が出ていると聞きます。

いったい、どのような方法、どのような流れで議会が行われているのかについてお聞きします。以上です。

【子ども議員の質問に対する答弁：郡司議会事務局長】

それでは、^{ひろさわ}広沢小学校、高橋優雅 子ども議員の質問にお答えいたします。

和光市議会には、選挙によって選ばれた議員による会議として、本会議と委員会があります。本会議は、市議会議員18人全員と市長、また、市長の仕事を助ける職員が集まって、皆さんが今いるこの議場で会議を開きます。委員会は、総務環境常任委員会と文教厚生常任委員会という2つの委員会が設置されていて、本会議に出されたたくさんの議題について、関係する分野別に詳しく専門的に審査するため、18人の市議会議員が委員として、それぞれの委員会に別れて、委員と市の職員が集まり、この議場ではなく委員会室で会議を開きます。

議会の会議の流れについて、年4回行われています定例的な会議で御説明をしたいと思います。まず初めに、本会議で、話し合う議題について市長がその内容と理由を説明します。次に、議員が議題の疑問点などについて質問し、市長や職員がそれに答え、いったん本会議を終了します。

次に、本会議で出されたたくさんの議題を各委員会に分担して、実際に現場を確認したり、議題に対する疑問点などを市職員に質問するなど各委員が納得するまで議題についての話し合いを行います。そして、まず委員会としてその議題に賛成するかしないかを多数決によって決定します。

委員会の終了後、もう一度本会議を開いて、それぞれの委員会の委員長が、委員会での話し合いの結果を全議員に対して報告します。そして、その委員長の報告を受けて、改めてその議題についてどうして賛成するのか、反対するのかその理由をそれぞれの立場で意見を述べます。この委員長の報告やほかの議員の賛成又は反対の意見を聞いて、各議員はそれぞれ自分の考えを決め、最終的にこの議題に賛成か反対かを判断し、議長が賛成の人の起立を求め、出席議員の半分より多い議員が賛成すれば賛成、そうでなければ反対と多数決によって議会としての決定をします。

このように、和光市の大事な問題は、きめ細かく、専門的に検討し、できるだけ市民にとってよい答えが出せるように、本会議と委員会という会議で何回も話し合って決める仕組みになっています。以上です。

【子ども議員の質問に対する答弁：松本市長】

高橋議員、御質問ありがとうございました。

役所と議会という大きな2つの組織が市にはあります。役所では、まず何をやるかというところ、予算を決めます。そして、その予算を実施するという仕組みがあります。ただし、予算は、予算案をつくることができるだけで、最終的な予算は、議会が決めるということ

になっています。それから、役所が行った仕事について、チェックをしてそして、最終的にそれでいいかどうか、実は議会が決めるのです。これは、どういうことかという、役所が何でも決めてしまうと、誰もうまくチェックができなくて、もしかすると税金が無駄に使われてしまうかもしれないからです。一方で議会では、実際の仕事は、できないのだけれども、重要な意思決定をしたり、チェックをしたりする権限を持っていることで、2つに機能を分けて、そして相互が機能することで、市民の税金が大切に、そして市民の意見を生かして使われているという仕組みになっています。ぜひとも、議会の傍聴は、子どもでもできますので、一度御覧いただければと思います。以上です。

発言順位12番 田島 栞 子ども議員

子ども議員の広沢小学校、田島栞です。

和光市の防犯についての一般質問を行います。

テレビのニュースでは毎日のように凶悪な事件が報じられています。和光市でもつい最近、ナイフを使った強盗の事件が報じられていました。こんなに近い場所で事件が起きているんだなと思うと、外を歩くのも怖くなってしまいます。

そこで、私たちの通学する学校は安全なのだろうかという疑問にぶつかりました。校門には鍵がかかっておらず、塀は低く、いつでも誰かが入って来れる状況ではないかと思いました。

私たちは安心して学校生活を送りたいですが、和光市では防犯についてどのような対策がとられているのかについてお聞きします。以上です。

【子ども議員の質問に対する答弁：大久保教育長】

広沢小学校。田島栞 子ども議員の質問にお答えいたします。

和光市においても、子どもたちが不審者にあとをつけられたり、いやな思いをさせられたりして、被害を受けたり、被害を受けそうになったりしたことも少なくありません。子どもたちや市民が安心して生活ができる街づくりを進めていくことが大切な課題の一つとなっています。

和光市の学校では、不審者の侵入に備えて、職員室や教室に防犯ブザーやさすまた、たてや防犯用カラーボールなどを備えています。また、不審者の侵入を想定した避難訓練を実施している学校もあります。学校の先生方もいざというときに適切な対応ができる

ように備えております。

学校の門については、児童生徒が登校した後は、不審者等がふらっと学校の敷地内に入ることがないように扉を閉めています。学校には、保護者や地域の方、給食や教材を扱う業者の方など、多くの来客があることから、鍵締めはしていませんが、今年の10月からは、全小中学校の校門付近何箇所かに防犯カメラを設置しました。犯罪を未然に防ぐ効果があると思われま

す。和光市では、和光市地域子ども防犯ネットとの連携を図り、全ての小学校において、児童が不審者被害にあわないように、子ども安全教室を実施してきております。

また、小学校1年生には、いざという時に対応できるように防犯ブザーを配付しております。登下校時だけでなく、帰宅後や休日などにも身に付けて活用してほしいと思います。

いざという時に子ども達が駆け込むことができるように、多くの家庭やお店などに子どもを守る家に登録していただき、その数は500件近くとなっています。

田島議員の「安心して学校生活を送りたい」という願いは、全ての子どもたちの願いであります。今後とも、和光市の子ども達が、さらに安全で、安心して生活することができるような環境を整えてまいります。

【子ども議員の質問に対する答弁：松本市長】

田島議員、御質問ありがとうございます。

さて、学校を高い壁で囲って、そして鍵を閉めてというような学校の守り方ももしかしたら、あるかもしれません。しかしながら、そこにひとたび犯罪者に侵入されると子どもたちは、逃げ場がなくなってしまうのです。ですから、私たちが重視をしているのは、もちろん、ある程度の抑止力は必要ですが、周りをフェンスとかで囲って、それから、校門を閉めています。さらには、監視カメラも付けました。しかしながら、もっと大事なことは、地域の皆さんに学校を見守っていただく、地域の皆さんが学校を守る主役になっていただく、さらには、子どもたちにも犯罪に遭わないスキルを身に付けていただくことで、ハードとソフトとこれをいうのですが、施設の面とそれから皆さんのスキルの面、両方で地域の子

発言順位13番 秋谷 萌衣 子ども議員

子ども議員の北原小学校、秋谷萌衣です。

私は、平和についての一般質問を行います。

今年の9月に、集団的自衛権を認める安全保障関連法案が国会で可決されました。このニュースを見て、私は平和について考える必要があると思いました。

実際に戦争について調べると、世界では色々な場所で戦争や紛争が起きていることがわかりました。でも、日本では、第二次世界大戦以降、70年間戦争が起きていません。

和光市としては、今の日本の平和がずっと続いていくために、どんな取り組みをしてくださっているのでしょうか、教えてください。以上です。

【子ども議員の質問に対する答弁：山崎企画部長】

北原小学校、秋谷萌衣 子ども議員の質問にお答えいたします。

安全保障関連法案につきましては、その成立によって、日本が戦争に向かうのではないかと心配する国民の声もありまして、賛成や反対と多くの議論が交わされながら先の国会で成立いたしました。現在の世界情勢を見ると、中東地域などにおいて悲惨な戦闘行為が繰り返され、多くの尊い命が奪われたり、難民として多くの人々が不自由な暮らしを強いられていることが、テレビや新聞で報じられています。このような状況を見るたびに、悲しい気持ちになるのは、私たち大人も一緒です。秋谷議員も平和について考える必要があると思っているとのことですが、和光市では人々を不幸にする戦争の悲惨さを、世の中に伝えて行くために、平成15年度から講演会、ビデオ上映、資料の展示などの平和推進事業を積極的に行っています。特に平成24年度からは若い世代に戦争の悲惨さや平和の尊さを語り継ぐことを大きな目標として毎年中学校を会場に平和祈念講演会を実施しています。これは、主に広島、長崎そして沖縄の平和記念館から、そこで語り部として活動する戦争体験者の方々と和光市にお呼びして、講演会を行っているものです。中学生の皆さんはすでに参加したことがあるかもしれませんが、小学生の皆さんも中学校に進学したらこれらの平和祈念講演会を聴くことになるでしょう。そのときには、平和の意味について大いに考えていただきたいと思います。また、来年度開校する下新倉小学校に、平和を祈念し長崎市の「被爆クスノキ2世」を植樹し、平和の象徴として大切に育て平和の大切さを伝え続けていきたいと思っています。

和光市は、戦後70年が経過したこれからも「戦争は絶対に行ってはいけない。いつまでも平和が続くことを願う」。そのような立場になって、平和祈念事業を続けていきたい

と考えていますので、皆さんも平和について考えてみてください。以上です。

【子ども議員の質問に対する答弁：松本市長】

秋谷議員、御質問ありがとうございました。

和光市は、「平和首長会議」という会議に参加しています。国内では、1,597、海外では、5,296の市町村とともに、一緒になって平和を推進する活動をしています。それから、和光市には、姉妹都市として、アメリカのワシントン州にロングビューというまちがあります。そことも交流をしております。国と国が例え仲が悪くなって、そして問題が起きそうになっても、お互いの国の中に友達がいる。お互いの国の中に仲のいい自治体があって、もしかしたら戦争を止める力になるかもしれません。これからも市役所は、市役所らしい、そして、市民は市民らしい立場で民間の交流をしながら、戦争のない平和の世界をつくっていく、そんな活動ができればと思っております。よろしくお願いいたします。

発言順位14番 高橋 弥玖 子ども議員

子ども議員の北原小学校、高橋弥玖です。

道路環境についての一般質問を行います。

私は、道路環境について2点質問します。

1つ目は、三和地区の道路についてです。私の学校の通学路である三和地区では、とても道幅が狭く、車がすれ違おうとすると、グリーンベルトの中に車が入らないとすれ違えることができません。そのため、北原小学生がグリーンベルトを歩いていても、とても危なく感じる場合があります。三和地区の道路を少し広くするか、一方通行にして車がすれ違わないようにすることは可能でしょうか。

2つ目は赤池方面の街灯についてです。私の住んでいる赤池方面の道路では、あまり街灯がないため、帰りが遅くなった時には、とても怖く感じる場所が多いです。赤池方面の道路に街灯をつけてもらうことは可能でしょうか。以上です。

【子ども議員の質問に対する答弁：星野建設部長】

北原小学校、高橋弥玖 子ども議員の質問にお答えいたします。

和光市では、道路を拡げたり、修理したりすることは、市内の全ての道路の状況を確認して作り直した計画に基づいて行っています。道路を拡げる場合、道路に接している

家の方の土地を道路にすることになるので、そこに住んでいる人、土地を持っている人の協力が必要です。

1つ目の御質問の北原小学校近くの、三和地区内も、市の道路については、（地図のフリップ）北原小学校があって、こちらが通学路ですね。この道路を^{ひろ}広げるには色々な人の協力が必要になってきます。また、一方通行にするためにも、道路を^{ひろ}広げるのと同じように、周辺の人達の^{たち}賛成をいただき、警察の方にも交通規制をするための相談、協力をいただく必要がございます。道路をすぐに^{ひろ}広げたり、一方通行にすることは^{むずか}難しいですが、通学路の安全のために^{ちいき}地域の人達の協力を得ながら、整備を進めていきたいと考えております。

次に2つ目の赤池方面の街灯についてお答えいたします。

和光市が管理している市道には街灯が高さ5m前後、約20mの^{かんかく}間隔を目安に設置されています。街灯近くの家は夜間の街灯が点いている間、家の中に光が入ってしまうことがあるため、設置する周辺にお住まいの方の協力をいただく必要があります。

また、畑が^{りんせつ}隣接する道路では、日中だけでなく夜間も畑に光が当たると農作物の成長にも^{えいきょう}影響が出るため、街灯が設置しにくいこともございます。

今回、高橋 子ども議員の^{してき}指摘がありました場所につきまして、周りの人達の^{たち}意見を聞きながら、街灯が必要か考えていきたいと思っております。以上です。

【子ども議員の質問に対する答弁：松本市長】

高橋議員、御質問ありがとうございました。

今、和光市では、^{せま}狭い道路を広くするために、積極的に土地を売っていただける方に協力をいただきながらいろいろなところで道路を広げています。例えば、北原小学校の正面にも新しく^{じゅうたくがい}住宅街ができました。その歩道というのは、やはり市役所が買い取って広げた場所です。また、今、いろいろな新しい技術が出てきています。LEDの電灯とかですけれど、もしかしたら今まで畑に^{えいきょう}影響があるから、電灯が設置できなかった場所でも、新しい機械なら設置できるかもしれません。ですから、こういったところに街灯が^ほ欲しいとかご意見をいただいて、それを参考しながらこれまでなかったところでもいろいろな^{けんとう}検討をしていければと思っております。よろしく願いいたします。

発言順位15番 塚田 静 子ども議員

子ども議員の本町小学校、塚田静です。

陸上競技大会の会場についての一般質問を行います。6年生になると、秋に陸上競技大会が開催されます。和光市はいつも第四小学校で行っていますが、他の市の友達は陸上競技場で行っていると聞きました。陸上競技場で行う方が小学校の校庭で行うより「大会」という雰囲気が出て、意欲が高まると思います。また、陸上競技大会の日、第四小学校の人たちは、一日中校庭を使うことができません。しかも、校庭の整備等、陸上競技大会の準備はとても大変だと思います。

このことから、和光市でも陸上競技場やそれに代わる運動場などの専門的な施設で陸上競技大会を行えたらうれしいです。実現できるかどうかかかっています。

【子ども議員の質問に対する答弁：大久保教育長】

本町小学校、塚田静 子ども議員の質問にお答えいたします。

確かに、近隣の朝霞市、新座市には、陸上競技場がありますが、和光市には陸上競技専門の施設がありません。

陸上競技ができる施設を建設するためには、広い土地と多くの建設費用が必要であることから、そのような施設の建設は大変難しい状況であります。

また、近隣市の陸上競技場をお借りする場合にも、往復の移動時間が多くかかることや、競技場を借りる費用やさらには、移動のためのバス等の費用も必要になりますので、これまで市内では、一番広い校庭のある第四小学校において実施を続けてきています。

和光市運動場での実施については、以前に検討したことがありますが、走り幅跳びのための砂場がありませんので、運動場で全ての種目を実施することが困難であることから、これまで利用してきておりません。

一方、第四小学校の広い校庭や隣のレクリエーション広場では、全ての種目を一度に実施することができます。また、友達や他の学校の選手を間近で応援することができたり、競技や応援を通して、たくさんの友達と交流を深めることができます。

第四小学校の皆さんにとっては、市内の6年生が力いっぱい競い合う姿を目の前で見、応援することができるなど、他の学校の児童が経験できない貴重な機会ともなっています。

校庭の整備等についてもご心配いただいておりますが、陸上競技大会前日には、市内小学校の体育主任の先生方、和光市小学校体育連盟の先生方がお互いに協力しあって素晴らしい競技環境を整えてくださっており、本当にありがたく思っております。

塚田議員の発言は、とても大切な発言であります、様々な難しい問題もあることから、今後とも、和光市の陸上競技大会は、第四小学校の校庭をお借りして実施し、より一層充実した大会となるよう努めてまいりたいと考えております。以上です。

【子ども議員の質問に対する答弁：松本市長】

塚田子ども議員、御質問ありがとうございました。

今、第四小学校で陸上競技大会を行っておりますが、和光市は他の市と比べると非常に狭いのです。ですから、市内の小学生が歩いて集まって陸上競技大会をすることができます。他の市では、それはなかなかできないことですので、今の第四小学校でやるというメリットもあるのかなと思っております。

それから、教育長さんからお話がありました専門の競技場をつくるということは、たくさんのお金がかかります。そして、そのお金を払うのは、もちろん今の大人も払いますが、塚田議員も大人になるともしかしたら、この費用を税金で払わなければいけないかもしれません。ですから、新しい施設を検討する際には、市民の皆さんみんなが作りた、そして税金も払って、そして将来借金もしてもいいというもの以外は、難しいのかなと思っております。いろいろな議論をしながら、新しい施設のあり方についても一緒に考えていければと思っております。御質問ありがとうございました。

発言順位16番 武笠 にこ 子ども議員

子ども議員の本町小学校、武笠にこです。

和光市駅の活用についての一般質問を行います。

和光市駅は、東武東上線の駅の中で、1日に乗ったり降りたりする人の数が、池袋の次に多いと聞きました。

実際には、有楽町線や副都心線との乗り換えのためで、駅から出る人は少ないそうですが、そういったたくさんの人たちに和光市や「わこうっち」のことを知ってもらうために、駅のホームに和光市のアンテナショップなどをつくることはできないでしょうか。

アンテナショップで販売するものとして、和光市でとれた新鮮な野菜を置くと思います。特に会社帰りの人は、忙しいと思うので、ホームでパッと野菜などが買えると助かるはず。野菜を入れる袋がビニール製で透明だと中身が見えていやな人もいると思うので、「わこうっち」や「さつきちゃん」のイラストが入った、かわいい袋に入

れて持ち帰ると、さらにお客さんに喜んでもらえると思います。和光市駅の活用についての考えをお聞きします。 以上です。

【子ども議員の質問に対する答弁：本間市民環境部長】

それでは、本町小学校、武笠にこ 子ども議員の質問にお答えいたします。

和光市は、東京都と隣り合っていて交通が便利なことからも、現在も発展を続けています。和光市駅は多くの方が利用していることから、アンテナショップをつくることは、多くの人に和光市の魅力をPRすることができると思います。

また、市内にはまだまだ畑が残っていて、農家の皆さんは、今も沢山の野菜を栽培しています。その新鮮な野菜を和光市駅で販売して、多くの方に味わってもらうことは農家の皆さんが頑張る励みになると思います。

このようなアンテナショップで「わこうっち」、「さつきちゃん」の二人を紹介することで、和光市をPRする効果はさらに高くなると思います。皆さんが知っているように、わこうっちの特技は、「和光市のステキを発見」することです。わこうっち、さつきちゃんのように、多くの人に「和光市のステキ」を発見してもらえれば、皆さんがもっと和光市を好きになり、和光市に住みたいと思う人が増えていくと思います。

ご提案の駅のホームにアンテナショップをつくることについては、乗り降りする人が多いため実現することは難しいかもしれませんが、鉄道会社の計画では、和光市駅南口に駅とつながった商業施設が建てられることから鉄道会社の方とも相談しながら、駅ビルにアンテナショップを建設することについて、考えていきたいと思います。

【子ども議員の質問に対する答弁：松本市長】

武笠議員、御質問ありがとうございます。

今、駅の南口広場のところに民間の方がつくったアンテナショップがあります。もしかしたら、ご存知かもしれません。そこにもたくさんわこうっちグッズがありますので、ぜひひとものぞいていただければと思います。

また、そのアンテナショップは、駅から良く見えますので、どうにかして駅にいる人たちにPRをして、そこでも和光の野菜であるとかいろいろな産品を売っていますので、ぜひ幅広い方に買っていただきたいなと思います。

それから、駅ホームの話は、今、部長が答弁を申し上げたとおり、ちょっと和光市駅のホームは狭くて、特に夕方になると人がたくさんいるので危ないのかなと思います。ただ、

その危^{あぶ}ないのを何とかするために、今、東武鉄道さんと協力して東武側にもホームドアをつくる計画があります。より便利で安全でそして楽しくなるように市役所も努力してまいります。御質問ありがとうございました。

発言順位17番 河野 琢 子ども議員

子ども議員の^{やまと}大和中学校、河野琢です。

和光市の教育予算についての^{いっばん}一般質問を行います。

市の子どもの教育予算はどの程度あって、どのように使われているかについてお聞きします。

^{わたし}私は、教育予算の使い道に子どもたちが気づけていないことも問題であると感じています。だから、もっと和光市の出す新聞やホームページなどに教育予算について^{けいさい}掲載することを要望しますがいかがでしょうか。以上です。

【子ども議員の質問に対する答弁：山崎^{きかく}企画部長】

それでは、^{やまと}大和中学校、河野琢 子ども議員の質問にお答えいたします。

今年度、平成27年度は、下新倉小学校の建設により教育予算が例年よりもかなり多い^{じょうきょう}状況のため、平均的な予算であります平成26年度の^{いっばん}一般会計の当初予算によってお答えしたいと思います。

まず、こちらをご覧ください。市の予算額は全体で227億5,600万円で、その中で教育費は22億2,000万円で、予算全体に占める割合は9.8%となっています。

平均的に教育費の予算は、市の^{いっばん}一般会計全体の毎年10%前後となっております。

先ほどもお話いたしました、27年度は、下新倉小学校の関連予算が約40億円あったため、予算全体の10%前後が、27年度は、22%と大きく^{ふく}膨らんでおります。毎年市が行う事業の大きさや事業の量、それぞれ、^{ふくし}福祉、土木、教育費などにかかる重点的な事業もありますので、この円グラフの^{わりあい}割合が、その事業費によって若干^{じやつかん}変わってくるということを^{ごりかい}御理解いただければと思います。

次にこちらをご覧ください。教育費は5つに分類することができます。小学校、中学校に関連する費用のほか、公民館や図書館、成人式などの社会教育費、そして市民体育祭や総合体育館、学校給食などの^{ふく}保健体育費も含まれています。

^{みな}皆さんに関係が深い小学校費、中学校費につきましての具体的な内容を申し上げます。

トイレの改修や建物の耐震化、プールに関する費用、それとグラウンドの整備に関する費用、学校を維持管理するための費用、林間学校やオーケストラ鑑賞会などへの参加の補助金、そして教科書以外の副読本の費用、心臓健診などの医療に係る費用など、学校生活の上で必要なものがあります。

はじめのフリップは市の広報誌などでも広く公表されておりますが、見たこともあるのではないかと思います。河野議員のご指摘のとおり、教育費の細かいところまでは、現在、紙面の制限の問題などもございまして、今のところ、わかりやすく公表されているとは言えませんが、今後、公表の方法などを改善していきたいと考えております。

教育費には皆さんが通う小学校や中学校に関係する予算ですから、使い道や使い方に興味を持っていただき、より良い学校生活を送っていただければと思います。

【子ども議員の質問に対する答弁：松本市長】

河野議員、御質問ありがとうございます。

予算の内容については、細かいところまで市のホームページで見ることができるようになっております。ただし、かなり難しい言葉で書いてありますので、もしかしたら学校の調べ学習などで、先生の力を借りたりしながら、ご覧いただくと良くわかるのかなと思います。ぜひ、分からないところは、役所の財政課までお尋ねください。

それから、自治体によっては、子ども広報というものを出しているところもあるのですね。もしかしたら、そういったことも可能かもしれませんので、今日の御質問の趣旨も含めていろいろな方法を考えていきたいと思っております。

御質問ありがとうございました。

発言順位18番 松崎 彩花 子ども議員

子ども議員の大和中学校、松崎彩花です。

自由に学習できる場の設置についての一般質問を行います。

私は、テスト前の放課後に友達と一緒に勉強をすることがあります。その時、悩んでしまうのが、場所選びです。図書館では、本を読む人が優先となってしまいますし、何席かかたまって席が空いていることは、そう多くありません。このように、「勉強をするための施設」が少ないのです。

そこで、気軽に勉強できる場を設けてほしいです。そうすれば、学ぼうとする人はもち

ろん、自主的に勉強してみようという人が増えると思います。

ですので、自由に学習できる場の設置を要望しますが、いかがでしょうか。以上です。

【子ども議員の質問に対する答弁：東内保健福祉部長^{ふくしぶちやう}】

大和中学校^{やまと}、松崎彩花 子ども議員の質問にお答えいたします。

気軽に勉強できる場、自由に学習ができる場の設置の要望ですが、

松崎彩花 子ども議員が言うとおおり、テスト前など、勉強する意欲^{いよく}のある時に勉強する場所が見つからないと困^{こま}ったり、自主的に学ぼうとする気持ちや、やる気がなくなることは十分理解できます。

実は、市内には図書館^{ほか}の他にも色々な施設^{しせつ}があります。例えば、新倉1丁目にある勤労青少年ホームは、1名でも登録すれば無料で利用できる施設^{しせつ}です。中央公民館やコミュニティセンターのロビーには、テーブルや椅子^{いす}があり無料で自由に使えるスペースになっております。小さい子どもさんたちがよく遊ぶ総合児童センターや児童館^{どう}も、空いているスペースは、勉強など自由に利用できます。少しにぎやかかかもしれませんが、勉強以外の時間で小さな子どもたちと交流することも、さらに心が優^{やさ}しくなったり、リフレッシュも出来る良い機会ではないかと思ひます。ぜひ、色々な施設^{しせつ}を利用してみてください。

また、今まで利用してきた施設^{しせつ}が使いにくい感じだったり、他の施設^{ほか しせつ}の使い方がわからなかったり、市の施設^{しせつ}を利用するにも不安なことが多くあると思ひます。今後、中学生高校生が気軽に利用できる施設^{しせつ}のあり方を教育委員会さんや関係担当^{たんとう}と研究をしてまいりたいと思ひております。その際は、松崎 子ども議員からも積極的に、意見、要望、提案をしていただけると思ひます。以上です。

【子ども議員の質問に対する答弁：松本市長】

松崎議員^ご、御質問ありがとうございます。

実は、今開放している中央公民館のロビーも昔は、あまり机^{つくえ}がなかったのですね。何年前に、中学生から「勉強する場^ほが欲しい。」という手紙が来て、それで教育長さんと相談して、机^{つくえ}とイスを設置した経緯^{けいゐ}があります。もしかして、今、この施設^{しせつ}が使えるのだけれど、ここで勉強がしたいのだけれどという提案をいただけると、新しく使える施設^{しせつ}をご用意できるかもしれません。ぜひとも、そういったご提言も積極的にいただければと思ひます。以上です。

発言順位19番 中島 幹二 子ども議員

子ども議員の第二中学校、中島幹二です。

和光市の小・中学校でのタブレット導入についての一般質問を行います。

現在、^{ひろさわ}広沢小学校では授業にタブレットが利用されているようですが、和光市内の小学校では具体的にどのような目的で導入されたのかをお聞きします。

^{ぼく}僕は、タブレットが授業に利用されれば、とても便利だと思います。たとえば、生徒の良い解答を全員の画面に映したり、^{うつ}班活動で意見を発表するときに、わざわざ黒板に^{はん}貼り出すのではなく、タブレットに書いたものをスクリーンに映すなど、授業をはかどらせることができると思います。しかし、現在、和光二中ではタブレットは導入されていません。今後、和光二中や和光三中、^{やまと}大和中でもタブレット導入のめどは立っているのかをお聞きします。

また、各中学校に導入される場合は、どのような使い方ができますか。以上です。

【子ども議員の質問に対する答弁：大久保教育長】

第二中学校、中島幹二 子ども議員の質問にお答えいたします。

文部科学省が発表した「教育の情報化ビジョン」では、5年後の「2020年までに^{すべ}全ての学校で、1人1台のタブレットを導入したIT授業を実現する」とされており、和光市教育委員会でも、整備を進めてきております。

コンピュータは、これまでも5年間ごとにリース契約を行い、コンピュータ教室や校務用のパソコンなどの情報教育のよりよい^{かんきょう}環境を整えてきました。

小学校については、平成27年9月から新しいリースが始まることから、コンピュータ教室のパソコンとしてタブレットを導入しました。タブレットは、持ち運びができ、様々な学習の場面で利用することができますので、新しい学び方が広がっていきます。

中学校については、現在のコンピュータ教室のパソコンは、およそ2年後の平成29年8月まで使用することとなっていますので、平成29年度9月からの新しいリースでは、最新のタブレットの導入を考えています。

中島議員のお考えのとおり、個人がタブレットで学習したものを電子黒板に^{うつ}映し出したり、グループの考えを発表しあったりして、短時間で情報を共有することができるので、これまで以上に学習を効果的に進めることができます。また、デジタル教科書や様々なアプリケーションソフトなどと組み合わせることで、さらに授業の^{じゅうじつ}充実を

はか
図り、わかりやすく学習することができるようになります。

中学校のタブレットの導入は、まだ少し先になりますが、新しい情報機器を効果的に活用して、小中学校の授業をいっそう楽しく充実したものにしていきたいと考えております。

【子ども議員の質問に対する答弁：松本市長】

中島議員、御質問ありがとうございます。

今、教育長がご答弁をいたしましたとおり、ちょっと先になってしまいますので、それまでは、ぜひパソコン教室のパソコンを使いながら、ITのスキルについてしっかり身に付けていただければと思います。

私^{わたし}が最初にパソコンに触れたのは、1990年頃ですが、その頃のパソコンというのは、本当に不便ですね、1つ1つコマンドとってですね、文字を入れて指示を出さないと動かなかったのですね。今のタブレットは、本当にそういう意味では使いやすい便利なものです。導入が先になるのは、申し訳ないのですが、ぜひともしっかりと今のIT環境^{かんきょう}に合った能力を身に付けていただいて、社会で役立てていただければと思います。

御質問ありがとうございました。

発言順位20番 渡邊 直大 子ども委員

子ども議員の第二中学校、渡邊直大です。

市民まつりについての一般^{いっぱん}質問を行います。

今日行われている市民まつりでは、ボランティアとして中学生が参加していますが、中学生が中心となって参加できる催^{もよお}しものが少ないと思います。

たとえば、8月に和光市図書館で行われたビブリオバトルのように、中学生が参加し、一般^{いっぱん}の人も楽しめる催^{もよお}しものがあつたらいいなと思います。

自分は、学校紹介^{しょうかい}を〇×クイズのような参加型のイベントをすれば、地域^{ちいき}と学校の結びつきがより強くなると思うので、このような催^{もよお}しものを開催^{かいさい}することはどうでしょうか。

今後、市民まつりに中学生が参加でき、一般^{いっぱん}の人も楽しめる催^{もよお}しものを企画^{きかく}できるかどうかがあります。以上です。

【子ども議員の質問に対する答弁：本間市民環境部長】

第二中学校、渡邊直大 子ども議員の質問にお答えいたします。

市民まつりは、昭和53年から始まった市内最大のお祭りであり、市内の文化や伝統を知っていただくと共に、市民同士の触れ合いの場として、毎年多くの方にご来場いただいております。

もし、市民まつりに中学校の代表が出る催しものがあれば、仲間を応援するために皆さんのような若い世代の方が会場に足を運びたいと思いますし、また、中学校の代表になるという目標を持つことは、物事に対してより熱心に取り組もうとする良いきっかけにもなりますので、とても良い提案だと思います。

例年、メイン開催の土曜日は、子ども向けの催しものを中心とした構成にしておりますので、ご提案をいただいた学校単位での催しものや中学生などが発案した催しものなどができるか、市民まつりに協力していただいている多くの人達とも話をしてみたいと思います。

今後も皆さんには、たくさんの催しものに参加してもらう中で、多くの人達との触れ合いを持つことにより、和光市のことを良く知ってもらい、もっと住みやすいまちになるように様々な提案や協力をお願いしたいと思います。

【子ども議員の質問に対する答弁：松本市長】

渡邊議員、御質問ありがとうございました。子どもが主体で、和光市で行ったイベントで一番大きいイベントは、少し前にありました「スマイルシティ」ですね。これは、企画の段階から、子どもたちのいろいろな意見をしっかりと踏まえてつくって、そして運営も子どもたちがやりました。子どもたちの力でそんな大きなイベントをやるのですね。ですから、ぜひとも図書館のイベントもそうですけれど、いろいろな拠点があります。あるいは、市民まつりでも結構ですので、友達といろいろな企画をつくって、そして、例えば、学校の先生と相談していただいたり、市役所と相談していただいたり、何かできればなど思っております。ちょっと「スマイルシティ」は、たくさんお金がかかりますので、同じようなことがすぐにできるか分かりませんが、中学生、小学生皆さんのいろいろな提案を生かしながら、和光市を活性化させていきたいと考えております。よろしくお願いたします。

発言順位21番 村田 実桜 子ども議員

子ども議員の第三中学校、村田実桜です。

学校のトイレ改修についての一般質問を行います。

まず最初に、同じ市内の学校なのにトイレのつくりがちがう理由についてお聞きします。

次に第三中のトイレ修理を最後にしたのはいつですか。

3番目の質問は、現在トイレ清掃に力を入れているのですが、元が汚いためきれいにならず、トイレの使用を我慢している人がいます。今後改修などの予定はあるのかお聞きします。以上です。

【子ども議員の質問に対する答弁：上篠教育部長】

第三中学校、村田実桜 子ども議員の御質問にお答えいたします。

まず最初に、同じ市内の学校なのにトイレのつくりがちがうのは、校舎が建てられた年が違うこと、例えば第三中学校は、今から39年前に建てられた建物でございます。同じ中学校でも大和中学校の増築校舎につきましては、今から7年前に造られた建物です。このように学校により建設された年がちがうこと、それから、学校の敷地、土地の形がちがうために校舎の配置や形がちがうこと、それから児童・生徒の人数がちがうことからトイレの数も違うことが大きな理由でございます。

次に、2番目の質問についてお答えいたします。第三中学校において、小規模な修繕は随時行っており、最後に修繕を行ったのは今年の夏休み期間中でございます。

そして、3番目の質問でございますが、第三中学校のトイレについては、改修の必要性があるため来年度改修できるよう現在、準備を進めております。

【子ども議員の質問に対する答弁：松本市長】

村田議員、御質問ありがとうございました。

今、教育部長からも答弁をさせていただきましたが、来年度に向けて準備をしているところであります。トイレは、本当に学校で一番嫌な場所だと言われておりますので、徐々に一番老朽化したところから順番に改善をしております。一方で、先ほどから何度も出ている話ですが、予算には限りがある中で優先順位を考えながら事業を選んでいるというのが実態です。これからも学校で学ぶ子どもたちの環境が良くなるように、現場の声も踏まえながら努力をしていきたいと考えております。以上です。

発言順位22番 山田 るり 子ども議員

子ども議員の第三中学校、山田るりです。

細い路地や暗がり、人目につきにくい場所の安全対策についての一般質問を行います。

大通りや人通りの多い所には外灯が多いのに、人通りの少ないところや暗いところには外灯が少ないと思います。安全対策の考えをお聞きします。以上です。

【子ども議員の質問に対する答弁：廣塚危機管理監】

初めに、危機管理室は、市の防災と防犯の仕事をさせていただいておりまして、皆さんの学校にも避難訓練や防災講話等でおじゃまをしております。

それでは、第三中学校、山田るり 子ども議員の御質問にお答えをさせていただきます。

外灯につきましては、一定の基準で設置しておりまして、市内の公道につきましては、その基準を満たしていますが、繁華街はお店の明かりなどが多いため、それと比べると議員が御指摘のように暗く感じてしまうものだと思っております。

和光市の安全対策といたしましては、平成19年から青色防犯パトロールカー制度を導入し、市内のパトロールを実施しております。

また、市内各地域には、自治会を中心とした自主防犯活動団体が約70団体ございまして、御協力をいただきながら、地域の安心安全活動を行っていただいております。加えまして、市からは防犯情報メールを配信いたしまして、市内で起きた犯罪情報をお知らせしておりますので、地域の防犯活動の際や、皆さんが犯罪から身を守るために役立てていただきたいと思います。

これからも、市内の安全安心を向上していくためには、市と市民が一緒になって防犯活動等を行っていくことが大切だと考えております。

議員を含めご家族の御理解と御協力を引き続き賜りまして、今後ともよろしく願いしたいと思います。ありがとうございました。

【子ども議員の質問に対する答弁：松本市長】

山田議員、御質問ありがとうございました。

いくつかの考え方で防犯を充実していきたいと考えております。

1つは、役所も施設面で頑張っていきたい。それから、パトロールカーのようなソフト

面でも頑張っていきたい。

もう1つは、自衛であります。危ないところには、なるべく行かないであるとか、夜の時間は、お父さん、お母さん、ご家族の方に迎えに来ていただくというような工夫も必要かもしれません。

それと、地域の皆さんの防犯活動も非常にありがたいことに、どんどん盛んになってきています。ぜひともですね、自治会と協力しながらそういったことも盛り上げていきたいと考えております。

最後に、これは、朝霞の署長さんもおっしゃっておりますけれども、痴漢であるとか、あるいは誰かにつけられたとか、危ないことがあったら積極的に交番に通報していただきたいと思います。そういうところを、重点的にパトロールしてくださるような話は、しっかりと署長さんもおっしゃっています。ぜひ、いろいろな観点から皆さんの安全を守っていきたくて考えておりますので、ともに頑張っていきましょう。御質問ありがとうございました。

【大久保教育長挨拶】

閉会に当たりまして、一言御挨拶申し上げます。

市内小中学校の子ども議員の皆さん、大変お疲れ様でした。

おそらく初めての経験だと思いますので、大変緊張されたのではないのでしょうか。でも、皆さんは、各学校において児童会や生徒会の役員をされておりますので、一人ひとりの質問の内容は、大変しっかりしており、また、質問の際の態度も立派でしたのでさすがだなと感心をしておりました。

皆さんの質問に対する各部長さん方の答弁につきましては、御理解御納得はいただけましたでしょうか。部長さん方は、皆さんにできる限り分かりやすい言葉で、また、誠意を持ってお答えできるよう答弁の内容を真剣に考えて準備をされておられました。

さて、皆さんもご承知のように6月17日に選挙権年齢を18歳以上に引き下げる、改正公職選挙法が成立し、来年夏の参議院選挙から適用されることになりました。

今日の子ども議員の中学3年生は、あと3年後の高校3年生ですね、そのとき新たな有権者になるということで、決して遠い将来ではないというふうに思います。

ぜひ、皆さんが今日の子ども議会の経験を通して、政治を身近なものとして捉え、これからの学びに生かしていただくことを期待しております。

結びに、市制45周年記念事業としまして、子ども議会を開催いたしました。子ども

議員の^{みなさま}皆様、保護者の^{みなさま}皆様、各学校の校長先生並びに^{なら}担当の^{たんとう}先生方のお力添えにより、大
変意義ある子ども議会となりました。

^{みなさま}皆様に心から感謝御礼を申し上げまして、^{わたし}私からの^{あいさつ}挨拶といたします。ありがとうございました。
ございました。